

第1回安曇野市誌編さん委員会 会議概要

1	会議名	第1回安曇野市誌編さん委員会
2	日時	令和2年7月30日(木) 午後1時30分から午後3時まで
3	会場	安曇野市豊科交流学習センターきぼう ホール
4	出席者	上角委員、窪田委員、倉石委員、小松委員、高原委員
5	欠席者	笹本委員、梅干野委員、宮崎委員
6	市側出席者	橋渡教育長、平林教育部長、山下文化課長、財津博物館係長、逸見博物館係主査、平沢文書館長、原博物館長、青木博物館係主査、那須野博物館係員、高橋博物館係主事
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	0人 記者 2人
9	会議概要作成年月日	令和2年7月30日

会議事項等

○会議の概要

- 1 開会 (山下文化課長)
- 2 あいさつ (橋渡教育長)
- 3 委嘱書交付
- 4 自己紹介
- 5 経過説明 (財津博物館係長)

- (1) 『安曇野市誌』編さん委員会設置に至るまでの経緯
- (2) 安曇野市誌編さん委員会設置要綱について

6 協議

- (1) 委員長及び委員長職務代理者選出

安曇野市誌編さん委員会設置要綱第3条第3項及び第4項の規定に基づき選出する。

委員の互選により小松委員が委員長に選出される。

小松委員長の指名により倉石委員が委員長職務代理者に選出される。

- (2) 安曇野市誌編さん構想(素案)について

事務局 ・『安曇野市誌』編さんの全体構想(案)について説明

委員 ・PDFによる書籍のデジタルデータ化は、紙面をスキャナーで読み取っただけでは文字列検索ができない。文字列検索を可能にするのであれば、最初からデジタルデータで作成するのが望ましい。

事務局 ・旧町村の自治体誌は一部PDF化し、図書館でのレファレンス業務に役立てているものもある。

委員 ・デジタル媒体が重要視されているが、デジタルデータの形式や保存媒体は日進月歩であり、永年保存に耐えうるものがないように思える。一方、紙媒体は素材として安定しており、市誌の基本的な媒体としては紙を重視していただきたい。

委員 ・教育現場での市誌の活用を考えると、デジタルデータでの情報提供は積極的に行っていただきたい。基本方針に「子ども版」があることは大変評価できるが、刊行が十数年先というのは困る。財政事情等からやむを得ない場合は、調査成果からでも教育現場で活用できるように考えていただきたい。

委員 ・基本方針の「平成・合併編」は作成していただきたい。市誌では、過去の記録に重点が置かれがちであるが、今現在の市の様子が分からないでは意味がない。現代編は必要と考える。

委員 ・デジタルデータでの情報提供に議論が進んでいるが、デジタルデータを前提としたインターネットの活用には、2つの路線を整理して進めていただきたい。1つは、意見が出ている市誌のデジタル化や子ども向けの情報のデジタル化である。もう1つは、市誌編さん活動で何が行われているか発信していくこと、専用のホームページを作成し、市民からの情報提供を受けられる仕組みを作っていただきたい。

委員 ・従来の市誌では小中学校での活用、特に児童・生徒のみで内容を読み取ることは大変困難であった。安曇野市誌では教育課程で重視されているアクティブラーニングへの活用を意識して

いただきたい。教育現場ではアクティブラーニングによる情報収集とフィールドワークが重要視されている。

委員 ・従来の自治体誌の刊行事例では、一般向けの書籍を作成した後に、子ども向けの書籍を作成していた。その方法では一般向けの書籍の焼き直しとなってしまう、子ども目線の書籍に編集することは難しい。また、教育現場との連携を重視するのであれば、同時並行で準備するか寧ろ子ども向けの書籍を先行して準備することも視野に入れるべきではないか。一方で、一般向けの調査が進まないと精度の高い市誌はまとめられないというジレンマもある。

委員 ・子ども向けについては、市誌編さん事業での刊行物にこだわらず、文書館の通常事業で子ども向け講座を行い、その成果をまとめていくということも考えられる。

委員 ・子ども向けの刊行物では漫画やイラストなど親しみやすい素材を活用していただきたい。

委員 ・写真編については、あえて写真集として刊行する必要はないと考える。各巻の分中に多く入れこむとか、民俗編の巻末に写真ページを設けるなどの工夫で補うことができる。資料編については、特に中高生はすぐに古文書が読めるわけではないし、市民が古文書などを活用する際の最初の媒体になるので、ぜひ読み下し文を付けたもので刊行していただきたい。

委員 ・従来の自治体誌では1冊のページ数が多く、重厚なものが主流だったが、財政事情や昨今の社会情勢を考慮すると、ブックレットサイズのものや、内容を簡略化したものを作成していくことを考える必要がある。特に平成編は地区ごと内容と記述量を標準化し刊行することも有効ではないか。

委員 ・情報収集にインターネットを活用することは大変有意義である。新型コロナウイルス感染症の影響化では従来の調査活動が行えない場合も想定される。

委員 ・財源にはクラウドファンディングやふるさと納税を活用することも検討いただきたい。

委員 ・メディアウィキを活用したシステム構築は比較的安価に行うことができるが、システムに入力されるコンテンツの編集には大変な労力がかかることが予想される。システム構築とコンテンツ作成のバランスを考慮し、効率的な仕組みを考えていきたい。

委員 ・学際的な情報視野を取り入れることは教育現場との親和性が高い。特に小学校での活用を考えたときに一つの学問分野に限定することなく、横断的に一つの事象を多面的に捉えた記述は大変有効である。安曇野市教育会では「私たちの安曇野」を刊行している。こうした刊行物との連携も考えていただきたい。小学校では5年生で地場産業、6年生では歴史を取り上げることも念頭においていただきたい。

委員 ・時代区分など従来の学問体系にとらわれず、地域の実情や市民への分かりやすさを重視した書籍の題名を考えていただきたい。(例 檜川村誌)

委員 ・編さん活動を活性化させるために、市制施行20周年記念事業に位置付けることも考えていただきたい。

委員 ・タイムテーブルは6年分しか提示されていないが、事業完了に何ヵ年かかるという見込みはあるのか。

事務局 ・事業完了の見込みについては、今後の検討事項とさせていただきます。

委員 ・文書館の活用を考えるのであれば、近世編・近現代編の調査を先行して行えるようにしてはどうか。

委員 ・映像コンテンツの作成は有効な手段なので検討していただきたい。

事務局 ・今後の会議では、平成合併編への意見、村落誌編への意見、動画活用への意見、年表と資料を紐付けるコンテンツの作成、調査活動への市民の参画の在り方などに御意見をいただきたい。

7 その他

事務局 ・次回の会議は令和2年8月17日(月)を予定している。

8 閉会

以上